

「石器時代にも稲あり」

100

周年記念

弥生時代研究会シンポジウム

土器圧痕研究の今と未来

2025 年
12/6^土・7^日

12月6日（土）13:30～17:00

13:30～ あいさつ・趣旨説明

14:00～ 小原一成（多賀城市教育委員会） 柵形囲貝塚と多賀城市の弥生遺跡

14:30～ 【基調講演】

設楽博己（東京大学）

「石器時代にも稲あり」の学史的意義

12月7日（日）9:30～15:00

9:30～ 高瀬克範（北海道大学）

土器圧痕研究の意義

10:10～ 上條信彦（弘前大学）

東北北部の土器圧痕研究

11:00～ 佐藤祐輔（東北芸術工科大学）

東南北部の土器圧痕研究

11:40～ 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）

七ヶ浜町の弥生遺跡

13:00～ シンポジウム

会場 多賀城市市民活動サポートセンター 3階大会議室

申込 フォームから申込（先着 80 名）

費用 500 円（資料代。資料は参加者に PDF で配布します）



申込フォーム

弥生時代が農耕社会であることをいち早く指摘した山内清男の学史的名著「石器時代にも稲あり」が発表されて 100 周年を迎える 2025 年。

シンポジウムを通して、その今日的評価と土器圧痕研究の未来を考えます。

【問い合わせ】

弥生時代研究会事務局（佐藤）
yusuko0820@gmail.com

【主催】

弥生時代研究会

【後援】

多賀城市教育委員会
弘前大学北日本考古学研究センター
東北芸術工科大学